

# あなたの子育て、家庭を応援しています。 顔の見える、あいさつしあえる関係から

## 橘子育て応援隊(長崎県)

### 家庭訪問活動

長崎市の橘小学校区で活動している家庭教育支援チーム「橘子育て応援隊」では、チームの訪問活動を円滑に行うためには、まずはじめに、自分たちチームの知名度を上げることが大切だと考えました。そこで、学校の保護者や地域の方々を知っていただくために、「橘子育て応援隊」のチラシ配布し、小学校の学校便りの中にチームの紹介をしていただきました。

次に、チームの特徴ですが、構成メンバー10人のうち9人が民生委員・児童委員です。民生委員の活動内容である「こんには、赤ちゃん訪問」や「子育てサロン訪問」に厚みを持たせ、出会う親に対して相談支援として発展させてきました。

また、個別の家庭訪問も行いました。それぞれのチーム員が学校や保育所・幼稚園・学童クラブ等から情報提供があった、気になる家庭や不登校傾向の子どもを持つ家庭などに、直接訪問していました。訪問回数としては、チーム員それぞれが抱えている相談家庭の内容によって様々ですが、月に2~3回から5~6回程度は行っています。

チーム員が訪問等をしたから、すぐに問題が解決するわけではなく、問題を抱えた家庭にとっては、身近なところに、気軽にあいさつや会話が出来るチーム員がいることで、地域との関係の希薄化や孤立化の防止に大変役立っています。

### 小学校を拠点とし、関係機関と連携した、 地域における子どもと親の支援推進役

チーム員が校区内の民生委員ということで、学校側との信頼関係が厚く、個人情報など守秘義務を守りながら、お互いの情報



チーム員の情報活動 ーチラシ配布ー

交換を行っています。特に、月1回、チーム員と小学校側(校長・副校長・担任等)との気になる児童や親について、情報交換を行うことが、家庭訪問をする際の重要なケース会議となっています。

学校からの情報を基に、家庭訪問を行います。兄弟関係や放課後の様子などの情報収集のために、保育所や学童クラブなども訪問しています。

また、地域の子育てサロンに出かけ、孤立する子育て家庭がでないように、チーム員のチラシを配布し広報しながら、訪問できる体制や関係づくりを行っています。



子育てサロン「お遊び教室」でのチーム員と親子のふれあい場面

### 取組の中で苦労したこと

- ・小学校等から情報を得て、育児不安、児童虐待、不登校といった課題を抱えた親に対して訪問支援を行う際、最初どのように接するか、訪問のきっかけづくりをどうすべきかなど、取りかかりが難しい。何回訪問しても拒否されるケースもあった。
- ・相談内容をどの程度受けていいのか、チーム員だけでは、解決しづらい内容もあり、他機関へつなぐときのタイミングや行動連携が難しい。チーム員のメンタルケアのために、臨床心理士等とのミーティング、面談や訪問相談のためのスキルアップ研修などが必要だと思う。

### 小学校を拠点としたことにより、学校だけでは解決しづらい「課題を抱えた親子」に対して、 学校と訪問チームが連携し行動へ!

学校側にとっては、学校だけでは解決が難しい課題を抱えた親子に、地域のチーム員が日常的に声かけや支援をもらうことで、その存在は大変大きいものとなりました。チーム員にとっても、民生委員の活動が、学校との連携により「橘子育て応援隊」の活動へと幅広い活動に発展でき、お互いに成果として表れました。

課題を抱える親子は、近隣住民とあまり交流がなく、誰かに相談したくてもできないなど、地域で孤立している場合が少なくありません。そういった状況にある家庭の情報は、地域のチーム員にも入りにくいのですが、小学校が拠点となっていることで情報が入り、早い段階での声かけ、支援ができました。



子育てサロン「お遊び教室」での母親との育児相談



チーム員が赤ちゃんを抱っこ 一親とチーム員が仲良く

## 地域住民だから出来る地域の関係機関との連携や地域行事への参加

「橘子育て応援隊」は、地域の住民で民生委員・主任児童委員なので、地域の信頼があるので、保育所や学童クラブ、子育てひろばなどに訪問することができ、気になる家庭の情報収集や相談などができました。

地域の安全パトロールや集団登下校の手伝い、子どもの健全育成活動の「まつりや運動会」の参加など、日頃からの住民や関係機関とのつながりがあり、孤立しがちな親子を早期発見できたり、地域との関係希薄化や孤立化を未然に防止することができてきました。

地域の親子と知り合い、子育て支援活動等を通して関わりを深めることで、「橘子育て応援隊」の活動は広がってきました。今後、「顔の見える・あいさつしあえる」関係が増え、継続的にできてこそ、取組の成果といえます。

## 「広げよう 地域に根ざしたおもいやり」

かつてのような「向こう三軒両隣」のような地域関係は、ほとんどなくなり、隣近所にどのような家族が住んでいるか知らないのも不思議でない時代となりました。反面、地域で子育てをしている親が集う場所の必要性も叫ばれています。多くの親は、家族の持つ養育する力と必要な社会資源を自ら利用しながら、子どもの健やかな成長を実現させています。また、地域の中には、社会的支援を必要としながらその支援を知らなかったり、利用を躊躇している親がいるのも事実です。

子どもが健全に育ち、安心して子育てできる地域は、すべての住民にとって暮らしやすい地域だと考えます。我々訪問チーム員の活動を通して、豊かな社会づくりに取り組んでいきたいと考えています。

## 「ひとりじゃないよ、みんなつながってるよ」

長崎県もかつて、長崎市の大水害や雲仙普賢岳の噴火の時、日本各地の人たちから、助けてもらった経験があります。人は、一人ではなかなか力が出せないこともありますが、みんなが一緒になれば、困難にも立ち向かうことができ、前向きに生きることができると思います。遠く長崎の地からですが、一日も早い、被災地の復興と被災者の幸せの実現を願うばかりです。

チーム名：橘子育て応援隊

活動開始：平成21年10月1日～

活動人数：10人

どのような人が活動しているか：主任児童委員・民生委員・小学校の相談員

団体住所(連絡先など)：長崎市立橘小学校  
長崎県長崎市かき道5-2-16